

經濟論叢

第125卷 第3号

哀 辞

故穂積文雄名誉教授遺影および略歴

フランス貴族商業論のひとつま 補論 ……………	木 崎 喜 代 治	1
比較生産費説・国際価値論・貿易利潤(中)……	本 山 美 彦	20
ディルクの剰余価値論(上)……………	岸 徹	47
19世紀末ドイツにおける「木源的蓄積」と 土地所有(2)……………	加 藤 房 雄	66

追 憶 文

先生の思い出……………	伊 達 功	84
穂積文雄先生を偲ぶ……………	桑 田 幸 三	92

經濟学会記事

昭和55年3月

京 都 大 學 經 濟 學 會

哀 辞

本学名誉教授 穂積文雄先生は 去る昭和54年11月26日に急逝されました ここに謹んで哀悼の意を表します

先生は 大正15年に京都帝国大学経済学部をご卒業になり昭和2年に東亜同文書院の教授になられましたが 昭和14年に助教授として母校に移られ 昭和20年には教授に昇任 昭和41年に定年退官されるまで 27年間にわたって研究と教育さらには後進の養成に尽力され 本学名誉教授の称号を授けられました ご退官後の昭和41年に名古屋学院大学教授になり 昭和52年からは大阪工業大学経営工学科教授として わが国の教育と研究に大きな貢献をされました

先生は 永年にわたるご研究のなかで 主に二つの分野にわたって業績を残されました その一つは戦前のもので中国の経済史と経済思想史の研究であり 二つには戦後のもので社会思想史に関する研究であります これらの研究は 著書「先泰経済思想史論」や学位論文「産業革命史の一断面」など数多くの著書や論文に発表され わが国の学界から高く評価されております

先生はまた 京都大学にご在任中 昭和14年人文科学研究所が設置されるや 研究員として人文科学の総合研究にも力を尽されました 学内の行政においても 昭和21年と昭和28年の2回にわたって評議員をされ 昭和27年には経済学部長として学部の運営に献身されました

経済学部に在職中 おおくの子弟を教育され また本誌にも数多くの貴重な論文を発表され わが学会のため ことのほかご尽力をいただきました 茲に 在天の先生の御霊にたいして 心から御冥福をお祈り申し上げます

昭和55年2月25日

京都大学経済学会